

市民 安心・安全フェスタ2010 IN あつぎ 国際認証記念大会を終えて —「夢と夢、人と人を繋ぐセーフコミュニティ」大会の意義と概要—

石附 弘：「市民 安心・安全フェスタ2010 IN あつぎ」実行委員会委員長

日本セーフティプロモーション学会第4回大会大会長、

日本市民安全学会第7回大会大会長、厚木市セーフコミュニティ専門委員

倉持 隆雄：厚木市協働安全部地域力創造担当部長、日本セーフティプロモーション学会理事

平野 亮二：前厚木市セーフコミュニティ担当課長

要旨

平成22年11月19日～20日、厚木市で開催された「市民安心・安全フェスタ2010 IN あつぎ」（市内ロワジールホテル厚木ほか）には、厚木市民はじめ、北は青森県、南は鹿児島県の他、茨城、大阪、神奈川、岐阜、京都、群馬、埼玉、滋賀、静岡、千葉、東京、栃木、長崎、長野、兵庫、福岡、福島、山口など21の都府県から多数の参加者があった。また、セーフコミュニティ認証都市および認証をめざして登録済みの都市7首長による初のサミット会議においてセーフコミュニティ共同宣言を発出したが、7自治体の人口（セーフコミュニティ推進人口）を合計すると85万人に達するなど、日本におけるセーフコミュニティ活動の関心の高まりや広がりが、急速に進んでいることを示す大会となった。

本稿は、厚木市が国際認証（日本で3番目、世界で223番目）を受けるに至る経緯、本大会の意義、その開催概要等についてとりまとめたものである（詳細は、「夢と夢、人と人を繋ぐセーフコミュニティ」（市民安心・安全フェスタ2010 IN あつぎ実行委員会編を参照））。

なお、以下、第2、第3のセーフコミュニティに関する見解は、実行委員会委員長として、本大会のコンセプトやプログラム構成の際に、事務局検討に付したものであることを付言しておく。

* * *

第1 国際認証を受けるまでの厚木市における取組み概要

1. セーフコミュニティの取組みの契機

厚木市は、近年の少子・高齢化の急激な進展、都市環境の変化、市民の価値観やニーズの多様化、地域コミュニティにおける絆の希薄化など、市民の生活基盤構造や環境条件の大きな変革の中、市民生活の安心・安全をめぐるっては、特に、①自殺事案、交通事故や子どもの安全を脅かす事案などの「事件事故の予防」、②事件等に巻き込まれる不安の「体感治安不安感の改善」、③「コミュニ

ティの絆の再生」（良好な近隣社会生活環境の改善）の3課題については、市民から高い関心が寄せられ市の最重要課題となっていた。

2. セーフコミュニティ導入の決定（2008年1月）

厚木市では、市の最重要課題の解決を図るため、2008年1月、セーフコミュニティ手法の導入を決定、認証を目指すこととなり、「不慮の事故は予防できる」とのセーフコミュニティの理念の下、市民の安心・安全を脅かす諸要因を科学的に明らかにし、コミュニティを基盤とした「市民協働」及び地域や関係機関・団体等の組織の横断的な取組によって、すべての市民の願いである「健康・安心・安全」の質の向上を目指す活動を積極的に展開することとなった。

3. 12年間の市新総合計画にセーフコミュニティ施策を明記

2009年度からは、今後12年間の新総合計画にセーフコミュニティ手法の施策実践を明記し、国際的な安心・安全都市、元気なまち厚木に向けた飛躍的發展を図ることとした。

4. 認証6指標に準拠したセーフコミュニティ活動の展開

組織横断的な取組みとしては、67団体で組織するセーフコミュニティ推進協議会が中核となり、幅広い継続的な取組み、7つのモデル地区の活動、8つの対策委員会による特別なプログラムの実施、外傷サーベイランス委員会が、それぞれ連携しつつ協働で活動に取り組んでいる。

また、国内外のネットワークへの継続的な参加のため、京都SCシンポジウム、亀岡市認証式、十和田市認証式、毎年日本SP学術大会等に参加した。海外においては、第17回・19回SC国際会議、第5回アジアSC会議に厚木市の取組みを発表し、韓国ソンパ区や台湾などSC認証コミュニティの視察をするなど各国のセーフコミュニティ活動の取組みを勉強してきた。

5. アジア地域WHOセーフコミュニティ認証センターによる指導・助言

2009年2月にチョウ・ジュンピル氏（アジア地域WHOセーフコミュニティ認証センター所長）、パイ・ル氏（台湾コミュニティセーフティプロモーションセンター事務局長、教授）、ワン・シュウメイ氏（中国フダン大学、教授）を招聘し、厚木市の取組みについて指導・助言を得た。

6. 認証申請書、現地審査、認証内定、認証式

2010年3月、WHOアジアセーフコミュニティ認証センターへ認証申請書を提出し、6月にはチョウ・ジュンピル氏、パイ・ル氏、イ・チョンア氏（韓国アジョ医科大学、医師）による現地審査を受けたのち申請書を修正、8月に認証の内定、2010.11、認証式を迎えることになったものである。

第2 認証記念国際シンポジウムのテーマを「世界と日本に広がるセーフコミュニティ」とした理由

1 世界から熱い視線が注がれるセーフコミュニティ

世界には、既に230余の認証都市が誕生し、700余の都市が認証を目指して取組んでおり、特に、アジアでの活動が顕著である。何故、WHO協働センターの提唱する世界基準の安心・安全なまちづくり（セーフコミュニティ）に世界から熱い視線が注がれるのか。

これは、セーフコミュニティの、①「すべての人は健康と安全に関して等しく権利を有する」「事件事故（外傷）は予防できる」という理念、および、②行政の適切な関与の下、コミュニティが主体となって安全・安心なコミュニティをつくらうという取組みが、国境を越えて、世界の人々の現代的ニーズに合致しているものと認識されるようになったためと考えられる。

2 「概念普及」の時代から本格的「実務実践」の時代に突入（日本の動向）

(1)自治体のセーフコミュニティに対する関心の高まり

わが国においても、近年、全国規模でセーフコミュニティに関する関心が高まっている。特に、京都府亀岡市（2008.3）や青森県十和田市（2009.8）のセーフコミュニティ認証取得、交通安全白書、犯罪対策閣僚会議での紹介、TVによる関係報道等を機に、当地厚木市のほか、長野県箕輪町、小諸市、東京都豊島区、横浜市栄区、福岡県久留米市、大阪府松原市など各自治体が取組みを本格化させており、今後、この動向はさらに幅広く拡大する趨勢にある。

言い換えれば、セーフコミュニティは、わが国への概念の導入・普及啓発時代（第1ステージ：準備段階）か

ら、自治体における本格的な実務実践の時代（第2ステージ：始期（2008年）・定着・発展期）へ向けて大きくテイクオフしたといっても決して過言ではない。

(2)セーフコミュニティと日本政府の基本的政策動向

セーフコミュニティの概念や活動が、近年、日本政府の白書等で多く紹介されるようになった。これは、政府の市民生活の安心・安全にかかわる基本的政策動向の内、例えば、自殺対策総合対策（H19.6）、交通安全基本計画（H18.3）、犯罪対策閣僚会議（H20.12）行動計画等の政策動向、特に、地域レベルでの包括的なプログラムのあり方や「コミュニティの絆の再生」プログラムの有用性に関心を示したと思われる。

また、WHO協働センターの提唱する世界基準の安全学校（インターナショナルセーフスクール（ISS認証制度）は、子どもの安全をめぐる諸課題に幾多の新鮮な実践的アプローチを示唆している。

3 セーフコミュニティの2つの先進性

何故、世界や日本でセーフコミュニティに関心もたれるのか。

(1)セーフコミュニティの科学的合理性、特に、「社会的価値創出」の科学を目指していることにあると考えられる。これは、1999年、ブタペストにおける世界科学会議において、これからの科学は、19.20C型「知識の科学」に加え21Cは「社会の科学」（「社会的価値の創出」のための科学）であるべきだとの流れに沿うものであり、セーフコミュニティの①予防・予知安全への志向 ②科学的根拠ある安全対策、③評価・検証プログラムなどは、まさに、これからのわが国の新しい安心・安全まちづくり、未来型都市像において目指すべき方向性を示唆するものであろう。

(2)コミュニティを主体とした組織横断的な問題解決手法にある。価値多様化の時代、社会生活は世界規模で均質の価値観で「統合化された社会」から異質の価値混在の「統合化されない社会」へ突き進んでいる（例：犯罪学者デニス・サボ）ように見える。

人々に残された最後のしかも最大の共通の価値は、命を支える「健康と安全」であり、セーフコミュニティの、「健康と安全」を基軸に、コミュニティ絆の再生や再統合の地域開発プログラムが、時代の切り札として期待されるからであろう。

第3 厚木大会の意義と「夢と夢、人と人を繋ぐセーフコミュニティ」のプログラム構成

(1)厚木市のセーフコミュニティ国際認証取得を記念しての大会

厚木市は、市民の安心・安全に対する高い関心に応え

るため、2008.1、導入を決定、その後、認証6指標に基づく体制づくり、地域課題の抽出、モデル地区指定、対策委員会の設置、セーフコミュニティの啓発活動など、約3年にわたる様々な困難を市民協働で克服、その取り組み実績がWHO協働センターによって国際的に認められたのを機会に開催された記念大会である。

(2) 新たな市民協働の「安心・安全 元気なまちづくり」スタートの大会

厚木市および厚木市民にとって本大会は、今後、内外のセーフコミュニティネットワークを通じての安全やコミュニティに関する知見を、厚木市民の安心・安全の質の向上のために有効に活用し、本格的な市民協働の「安心・安全 元気なまちづくり」を始動させる大会、意義あるキックオフ大会である。

(3) セーフコミュニティネットワークの1員として、厚木市の対外的活動開始の大会

認証指標6の趣旨に鑑み、本大会では、世界のセーフコミュニティリーダーを招聘しての国際シンポジウム会議や日本初の全国セーフコミュニティ推進都市首長サミット、行政マンのためのセーフコミュニティ入門講座、セーフスクール入門講座、セーフコミュニティ推進自治体の自治会や町内会リーダーのための公開講座、セーフコミュニティの科学的アプローチの基盤であるサーベイランスについてのワークショップなど多彩なプログラムを企画。これは、「お互いに学びあい分かち合い」、手を携えて地域の安全の向上のために知恵を出し合おうとのセーフコミュニティ精神に基づくものである。

(4) 「実務の行政知・安全の科学知・コミュニティの経験知」の3つの「知恵の輪(和)」

セーフコミュニティの特長である①科学的アプローチと②コミュニティを主体とした組織横断的な問題解決手法を効果的に展開していくためには、行政知と科学知、そしてコミュニティ現場の経験知、この3つの「知恵の輪(和)」が必要である。本大会では、このため日本セーフティプロモーション学会、日本市民安全学会に実行委員会に加わっていただき、それぞれの学会の年次大会を兼ねた大会とした。この結果、基調講演(2:内数は発表の数)、国際シンポ(9)、実行委員会企画(8)分科会(32)など、総数にして約90の発表が行われた。

(5) 新しい安心・安全なコミュニティづくりの方向性(キーワード)

なお、本大会では、2010年3月のセーフコミュニティ世界会議(韓国)で論議されたテーマ、例えば、予防(Prevention)、データによる科学的アプローチ(Surveillance)、根拠に基づいた対策(Evidence-based)、効果(Effectiveness)、評価(Evaluation)、コミュニティ

をベースにした(Community Based)、持続的な対策(Sustainability)、政策(Policy)(日本語訳は英語表示と必ずしも一致していない)などのキーワードを念頭に置きつつ、大会プログラムを構成した。これらは、わが国の新しい安心・安全なコミュニティづくりの方向性に、重要な、あるいはヒントとなるキーワードである。

* * *

セーフコミュニティが限りなく科学の高き真理を追求しつつ、一方において、市民生活の現場であるコミュニティの諸課題について、何事も他人任せにせず、「気付いた人から、気付いたところから始めよう」(セーフコミュニティの総帥スヴァンストローム博士の言葉)のとおり、目線が常にコミュニティの現場とその実践に向けられていることを、われわれは忘れてはならない。

参考：主要行事におけるスピーチなど

1 チョウ・ジュンピル認証センター所長による認証報告

「おめでとうございます。インターナショナルセーフコミュニティを代表して、厚木市の国際認証を歓迎いたします。ご存知のとおり認証は、厚木市が安全なコミュニティになったということではなく、安全なコミュニティになるためのプログラムが整ったことにより認証されたものです。」と述べ、厚木市がセーフコミュニティを認証したことが宣言されました。

2 認証協定書への署名

チョウ・ジュンピル氏、パイ・ル氏、白石陽子氏(アジア地域WHOセーフコミュニティ認証センター公認コーディネータ)、小林常良氏(厚木市長)、田上祥子氏(厚木市議会議長)、清水岩雄氏(厚木警察署長)、佐藤信雄氏(厚木市自治会連絡協議会会長)により認証協定書への署名がなされました。レイフ・スヴァンストローム氏(カロリンスカ医科大学研究所WHO地域の安全向上のための協働センター長、博士)は、事前に署名されました。そして、チョウ・ジュンピル氏は、厚木市長へ認証記念の盾及びセーフコミュニティ旗を授与されました。【写真1】

3 小林常良厚木市長 挨拶

みなさま、本日は、大変お忙しい中、厚木市のセーフコミュニティ認証式典にご出席いただき、誠にありがとうございます。ただいま、チョウ先生から認証記念の盾と旗をいただき、本当に感激の極みであります。

厚木市は以前から安心・安全に関する施策を進めてまいりましたが、私が2008年1月にセーフコミュニティの取組を表明しましてから、早や3年が経過しようとしております。

この間、多くの市民の皆様方、市議会議員各位、警察署や関係機関の方々などたくさんのご協力や励ましのお言葉をいただき、安心・安全なまちを目指し、認証取得に突き進んでまいりました。そして、チョウ先生、パイ先生はじめ、海外からのお客様、そして、神奈川県古尾谷副知事様、神奈川県警渡辺本部長様、また、これだけ多くの市民の皆様方がお祝いにかけてくださいました。本日、晴れて認証をいただくことができました。これもひとえに皆様方のおかげでございます。あらためて、衷心よりお礼を申し上げます。

また、昨日、清水小学校がセーフスクールの認証をいただきました。市町村立の小・中学校では日本で初の認証であり、これもまた、非常に喜ばしいことであります。いよいよ厚木市は、世界レベルで安心・安全に取り組むまちとして認められました。これをステップとして、自殺や交通事故の防止、子どもやお年寄りの安全などに本格的に取り組んでまいりたいと存じます。すべての市民の皆様方が安心して安全に暮らせるまち、あらゆる方々や関係機関が手と手を取りあい、互いに信頼し合えるまちを目指して、いっしょにがんばりましょう。本日は本当にありがとうございました。【写真2】【写真3】

4 神奈川県副知事からの式典祝辞

本日は、全国3番目のセーフコミュニティ認証を受けられました。同様に昨日、清水小学校が全国で2校目となるISS認証を受けられました。安心して暮らせるまちづくりと社会の実現のために、懸命になって努力した結果であると思います。心からお祝い申し上げます。

松沢知事が就任した平成15年の前年は、県の刑法犯認知件数が最悪の状況でした。19万件を超え、知事が就任したときの最大の懸案は、治安と県民の安全をいかにして守るかということでした。パトロールなど懸命な努力の結果、21年の件数は10万件を下回り、さらには9万件をも下回る状況になっています。交通事故についても、死亡事故は、大幅に減り、交通事故件数自体も減少の一途をたどっている状況であります。

神奈川県は、安全安心の確保に県警本部とともにまい進してまいりますので、どうぞよろしくお願いたします。本日は、誠におめでとうでございます。

5 アジアセーフコミュニティネットワークからのメッセージ

●アジアセーフコミュニティネットワーク代表 タンワシン

(英文代読 台湾コミュニティセーフティプロモーションセンター事務局長 パイ・ル教授)

アジアセーフコミュニティネットワークを代表して厚木市のインターナショナルセーフコミュニティ認証を心よりお喜び申し上げます。わずか2・3年前に始まった厚木市のセーフコミュニティの取組は、すでに成果をもたらしています。子供から高齢者までをカバーする安全プログラム、学校、職場、家庭の安全、外傷の予防等、市民の、ゆりかごからリタイア後までの多岐に渡る安全プログラムを遂行されています。厚木市民の安全な生活に対する強いビジョンや思いが今日の成果をもたらされたと思います。

厚木市の成功は、セーフコミュニティ運動は単に行政や組織のみで進められるプロジェクトではなく、行政、企業、民間分野、教育分野、医療関係者、学生、市民、全ての強い絆で進めて行くという事を教えてくれました。厚木市と市民は協力し、そこに住み、働き、勉強する人々がより安全で健康に生活出来るための努力を見せてくれました。さらに、今後の日本の外傷予防、安全教育のよい手本にもなりました。

厚木市は日本で3番目、アジアでは74番目の認証です。厚木市が橋渡しとなりアジアでのセーフコミュニティがさらに発展する事を期待します。

セーフコミュニティは地球規模の運動です。この運動を継続するため、経験や知識を共有する事が大切です。次回、2011年9月にスウェーデンで開催される第20回国際会議、2012年5月に日本で開催される第6回アジア地区国際大会に於いて是非厚木市のセーフコミュニティの取組を発表していただきたいと思います。

●認証団体等からのプレゼント贈呈、祝電

・認証団体等からのプレゼント 京都府亀岡市、青森県十和田市、パイ・ル氏、ワン・シュウメイ氏、●イ・チョンア氏、カン・チョルス氏 (韓国チェジュ島、消防署)、長野県箕輪町、東京都豊島区、長野県小諸市、横浜市栄区・関係団体からの祝電 小諸市長、西仲自治会

●厚木市長 小林常良 祝賀会謝辞

みなさま、厚木市は先ほどセーフコミュニティの認証をいただきました。本当にありがとうございます。

つい15分前に認証式典が終わったばかりでして、まだ興奮さめやらない状況であります。また、このあと、清

水小学校の校長先生にごあいさついただきますが、インターナショナル・セーフスクールの認証、合わせて本当におめでとうございます。

本日の祝賀会は、この二つの認証をお祝いして開催させていただきます。

京都府亀岡市様、青森県十和田市様について日本で3番目に認証の仲間入りをすることができました。ありがとうございます。私も対策委員会やモデル地区の方々とともに、体を張って取り組んでまいりました。

いろいろな場面での市民の方々の真剣なお顔が思い出されます。市民の皆様が安心・安全に暮らすことのできるまちづくりは、私の政策の中でも、最も重要な施策の一つであります。そして、このまちづくりを合言葉に市民の皆様との信頼を築いていくことができると確信しております。

今年は、B級グルメの祭典であるB-1グランプリを厚木で開催させていただき、大成功に終わることができました。そして、本日、安心・安全なまちづくりに努力する証であるセーフコミュニティの認証をいただきました。本当に光栄に存じます。

また、認証を記念して、本厚木駅前に「セーフコミュニティ認証都市」の記念サイン塔を建てることになりました。これは「厚木ロータリークラブ」様のご寄附によるものであります。誠にありがとうございます。厚木市は、ますます市民の皆様が住みよいまちづくりにまい進いたします。本日は、この榮譽に酔いしれて、心おきなく楽しんでいただきたいと存じます。簡単でございますが、私の祝賀のあいさつとさせていただきます。皆様、これからも、安心・安全なまちづくりによりしく願ひいたします。

●神奈川県警察本部長からの祝賀会祝辞

厚木市、清水小学校、厚木市民のみなさん、清水小学校の皆さん、本当におめでとうございます。大変素晴らしい認証のインターナショナルセーフスクールとセーフコミュニティと神奈川の誇りであります。先日のAPEC横浜大会においても、皆様のご協力、ご支援、ご指導を賜りまして、違法行為を抑圧し、責任をまっとうすることができました。これも皆様方の暖かい郷土愛、ご支援の賜物とお礼申し上げます。

厚木市が認証を目指したことは、警察の仕事でありまず安全安心なまちづくり、あるいは犯罪事故のない社会づくりと、まさに同じ目的でございます。

警察におきましても、ご当地厚木署におきましても、いろいろな形でご支援してきたつもりでございますが、ま

だまだ足りなかったと反省しておりますが、22万都市としての認証を確かなものにしてきたと思います。

警察も21世紀の治安をどのように守っていくか、基本は住民の方、ボランティアの方々と福祉活動の方とともに進めていくことだと考えております。このような形で認証を祝えることは大変うれしいことです。本当におめでとうございます。

●セーフコミュニティ認証都市あつぎ記念サイン塔建立
11月20日午前、本厚木駅前北口広場において、厚木ロータリークラブの寄附による「セーフコミュニティ認証都市」の記念サイン塔の除幕式が行われました。【写真4】

●全国セーフコミュニティ推進都市首長サミットの開催

11月20日午後は、厚木市文化会館において認証都市3市のほかセーフコミュニティの認証を目指している箕輪町、豊島区、小諸市、横浜市栄区の首長が出席し、各自治体のセーフコミュニティによる安心・安全なまちづくりへの現状や認証や再認証に関わる行政課題や今後の自治体間の協力のあり方について意見交換が行われ、7首長は、「今後、内外のセーフコミュニティ活動や認証に関する情報交換、また人的活動交流など関係自治体間の更なる連携協力強化とセーフコミュニティ推進自治体間のネットワークの構築が必要である。」との共通認識のもと「全国セーフコミュニティ推進都市首長サミット」共同宣言を行いました。【写真5】

●ビデオレターでのコメント

＜チョウ・ジュンピル氏＞ 厚木市のインターナショナルセーフコミュニティおめでとうございます。

＜マックス・ルイス・ボスキュラー氏（米国、WHOインターナショナルセーフスクール公認コーディネータ）＞ ようこそ、セーフコミュニティ／セーフスクールの一員へ！ 清水小学校の取組みは、「より安全ですばらしい学校」に向けて共に頑張っていくという決意が確実に実現されることを十分に示していました。

どうぞ、清水小学校の取組みを厚木市内そして日本全国に広げていってください。おめでとうございました。

＜パイ・ル氏＞ ようこそ、セーフコミュニティの一員へ！ おめでとうございます。

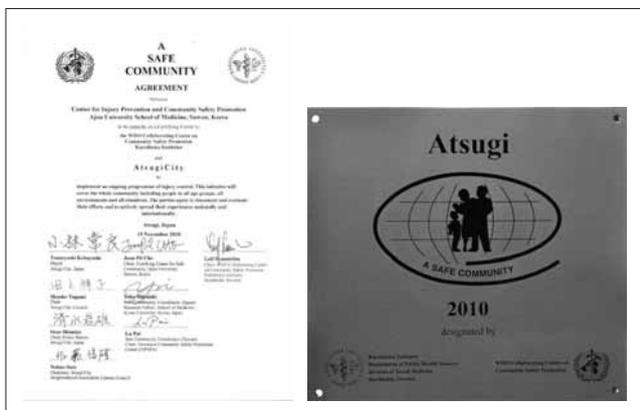
＜ワン・シュウメイ氏＞ 今回は、この記念すべきお祝いの場に同席させていただき、うれしく思っています。これまでの数々の努力の結果、外傷も減少してきています。この度の認証に心からお喜びを申し上げます。おめでとうございます。【写真6】



【写真1 認証協定書に署名】



【写真2 セーフコミュニティ旗】



【写真3 認証協定書と認証記念の盾】



【写真4 認証記念サイン塔除幕式】



【写真5 11/20認証記念大討論会でモデル地区発表】



【写真6 11/20ビデオレター】